

令和6年度 高千穂町立岩戸小学校 学校運営協議会評価書

【評価】 4:よい、3:だいたいよい、2:もう少し、1:よくない

【重点目標】 ○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得、活用を通した表現力の育成

重点目標	重点目標	評価項目	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		考察及び改善策	学校運営協議会委員の意見
					指標	総合		
知 づ く り	学 習 指 導	① 学校は、「わかる」「できる」授業を行い、学習内容を定着させ、学力を向上させようとしている。	○授業力向上に関するアンケートの達成度が80%以上	・今年度も研究授業を実施し、職員の授業力の向上を図る。 ・国語科の話すこと・聞くことの実践的な研修を深めることで、職員の指導力の向上を図る。	3.4	3.2	○ 職員の評価は低いが、児童と保護者の平均は期待値を超えており、児童の満足度は+0.9と高い。これは、職員が校内で研究授業を実施したり、校外の研修に積極的参加したりしたことにより児童に分かりやすい授業を実践しようとしている成果だと考えられる。	① 児童や保護者の評価が高いのは、職員の個別対応や教材選び、準備などきめ細かい指導の成果だと思う。
		② 児童に学年の学習内容が定着して(高まって)いる。	○基礎的・基本的な知識・技能に関するアンケートが達成度が80%	・個別指導を充実させたり、反復学習を充実させることにより、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	3.2		○ 評価平均「3.2」で達成率80%であった。全国学習状況調査は、国語、算数ともに全国平均及び県の平均とほぼ同じであったが、みやざき小中学校学習状況調査では、国語、算数ともに県の平均を大きく上回っていた。今後も「分かる」「できる」授業を意識し、少人数ならではのきめ細かな授業を実践する。	①～⑤ 全体的に職員の評価が低いのは、もっと子どもたちの持っている力を伸ばしたいという気持ちが強いために自己評価を厳しくつけた結果と考えられる。
		③ 担任は、タブレット等を活用し、「分かる」「できる」授業をしている。	○タブレット端末を活用した授業実践が80%以上	・効果的なタブレットの活用法を研修等で職員に周知する。 ・授業の中で活用できる場面を考えながら活用する。	3.2		○ 評価は、平均「3.2」で達成率80%であった。これは、職員の自己評価が低いためだが、児童と保護者の評価は高い。毎回の授業でタブレットを活用していないものの、児童の意見を集約したりドリル問題に取り組ませたりと効果的な活用はできている。	④ 家庭学習については、家庭との連携が不可欠であるが、様々な家庭環境への対応には困難さが伺える。
	図 書 館 教 育	④ 児童に家庭や児童クラブで宿題をする等、家庭学習の習慣が身に付き、宅習の内容が充実している。	○家庭学習に関するアンケートの達成度が80%以上	・「家庭学習がんばり週間」での取組を充実させる。 ・参観日における学習ノート展示によって意欲向上を図る。	3.1	3.2	○ 評価は、平均「3.1」で達成率78%であった。児童の自己評価は高いが、保護者や職員の評価は十分ではない。ごく一部の児童に家庭学習の習慣が身に付いていないので、参観日などで啓発したり個別に対応したりしながら家庭学習の習慣を身に付けさせる。	⑤ スマートフォンやタブレットの普及に伴い、家庭においても保護者も読書をしていないので、子どもも読書に関する評価が低いのは仕方がない。子どもが興味を持つような本を導入するなど考慮するとよい。
		⑤ 児童は、学校の図書室で借りた本やその他の本を読む時間や機会が増えている。	○読書に関するアンケートの達成度が80%以上	・読み聞かせを充実させ、児童の読書意欲を高める。 ・各学年の児童のニーズに合った蔵書の充実を図る。	2.9		○ 評価は、平均「2.9」で達成率72%であった。校内では、保護者の評価が低いのは、「読書課題の日」での、家族での読書ができるいないからと考えられる。先日の「子育て講演会」においても家族での読書の重要性が叫ばれていた。図書担当事務の下堂薦先生にもご意見をいただきながら、家族で読書をする習慣化を参観日や各種通信等で啓発する。	⑤ 読書では、本を選ぶという作業も大事である。保護者と子どもが一緒に図書室へ行って、本を選ぶ機会をつくってみるとよいと思う。

【重点目標】 ○ 基本的な生活習慣の確立と思いやりの心や正しい判断力を育てる指導の充実

重点目標	重点目標	評価項目	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		考察及び改善策	学校関係者評価委員の意見
					指標	総合		
生 活 づ く り ・ 心 づ く り	基本的な生活	⑥ 児童は、「おはよう」「いただきます」等の家庭でのあいさつのか、家庭外でもあいさつをしている。	○あいさつに関するアンケートの達成度が80%以上	・「あいさつ運動」の実施と「あいさつ週間」の設定により、あいさつの輪を広げる。 ・保護者と連携したあいさつ運動や立番指導を実施する。	3.3	3.4	○ 評価は、平均「3.3」で達成率83%であった。児童の自己評価は高いのは、朝のあいさつ運動等による成果だと考えられる。家庭や家庭外のあいさつについては、地域の方々にも積極的にあいさつをするよう、児童や保護者への啓発を継続する。	⑥ 朝のあいさつは、元気にできている。しかし、その後の地域の方の声かけに対して受け答えができるないので、学校や家庭での指導が必要である。
		⑦ 学校は、教育相談などをとおして、児童理解に努めている。	○児童理解に関するアンケートの達成度が80%以上	・定期的に教育相談週間を設け、個別の教育相談を行う。 ・「まごころ委員会」を定期的に実施し、共通理解を図る。	3.5		○ 評価は、平均「3.5」で達成率88%であった。保護者の満足度は低いものの、児童と教師の評価は高い。毎月「心のアンケート」による教育相談を実施し「まごころ委員会」で共通理解して指導している成果だと考える。今後も児童が教師に相談できるよう努める。	⑦ 一人一人の困りに気付いてくれる、もしくは、困りを自ら発信できる信頼できる存在や環境・体制が整うとさらによいと思う。
	思いやりの心・責任感	⑧ 学校は、道徳や学級活動、各種行事等をとおして、児童の思いやりの心を育てている。	○友だちに関するアンケートの達成度が80%以上	・特別の教科道徳や学級活動を中心と思いやりの心を育てる。 ・各種行事等の振り返りを充実させる。	3.4		○ 評価は、平均「3.4」で達成率85%であった。職員の評価が若干低くなっているが、道徳や学級活動や日常の授業をとおして相手を思いやる心が少しずつ育ててきている。また、運動会などの様々な行事をとおして自分や相手を思う気持ちが育ててきている。今後も適宜・適切に思いやりの心を育てる手立てを講じる。	⑧ トラブル等はあるが、陰湿ないじめ等がないのは、岩戸地区にはやさしい子が多いからである。また、下の子の面倒を見る児童も多い。これは、先輩方から脈々と続いている岩戸の風土のおかげだと思う。
		⑨ 児童に、最後まで責任をもって取り組もうとする態度が身について(高まって)きた。	○責任に関するアンケートの達成度が80%以上	・無言でテキパキと清掃活動に取り組ませる。 ・係や委員会活動等に責任をもって取り組ませる。	3.3		○ 評価平均「3.3」で達成率83%であった。校内においては、各種当番や委員会活動等の取組を称賛することで責任感の醸成を図っている。保護者の満足度が低いのは、家庭での取組状況によるものと考えられる。今後は参観日や通信等を活用し、家庭でも責任感の醸成を図る取組を推奨する。	⑨ 学校でも家庭でも、最後までやり遂げたときの児童への賞賛が必要だと思う。

【重点目標】○ 粘り強さを育てる指導や健康・生活安全指導の充実

重点目標	重点目標	評価項目	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		考察及び改善策	学校運営協議会委員の意見
					指標	総合		
体づくり	体力づくり	⑩ 児童の体力が、向上したと感じる。	○運動に親しむことに関するアンケートの達成度が80%以上	・体育の時間における体づくり運動を推進する。 ・朝の体力アップや昼休み時間の外遊びの奨励で運動能力を高めていく。	3.3	3.4	○評価は、平均「3.3」で達成率83%であった。児童の評価が高いのは、体育の授業や昼休みの活発な外遊びへの参加によるものと考えられる。職員の評価が低いのは、体力テストの結果が「A判定」が昨年度17名から16名へ減少しているなど結果が悪かったことなどが考えられる。今後は、体育の授業の研修を深めながら、体育の授業を中心に各種活動をとおして体力向上を図りたい。	⑩ 体力づくりは、日頃から家庭や学校において、外での遊び方などを考えてはどうか。学校では、一輪車の活用などもよいと思う。 ⑪ 今後も避難訓練等を含め、危機回避意識の高揚に努めてもらいたい。 ⑫ 「メディア利用のルール」については、家庭との連携となるため、児童はもちろんのこと、保護者にもメディアの怖さを理解していただけるような啓発活動をされることはよいと思う。 ⑬ メディア利用の悪影響が、昼夜逆転や不登校につながる場合があるので、ルールづくりについては、学校と家庭で啓発していく必要があると思う。
	安全指導	⑪ 学校は、安全な教育環境づくりと児童の「危機回避意識」の高揚に努めている。	○毎月1回の安全点検の実施と年4回の避難訓練の実施	・職員による安全点検を毎月実施する。 ・風水害、不審者対応、地震、火災の避難訓練を実施する。	3.6		○評価は、平均「3.6」で達成率90%であった。職員と児童の評価が高いのは、年4回の避難訓練の際に、切実感をもたせる手立て(予告なしで訓練を実施、移動の放送に緊迫感等)を工夫しているからだと考えられる。今後も児童にとって安全な環境づくりに努め、危機回避意識の高揚を図る。	
	健康教育	⑫ 児童に、健康に関する望ましい態度や習慣が身に付いてきてる。	○健康三原則に関するアンケートの達成度が80%以上	・毎月実施する「元気もりもりタイム」を充実させる。 ・高千穂町「メディア利用のルール」の家庭への啓発を図る。	3.2		○評価は、平均「3.2」で達成率80%であった。保護者と職員の評価が低いのは、高千穂町の「メディア利用のルール」を児童が守れていないことが原因と考えられる。再度、メディアの児童に与える影響や保健三原則を保健の授業等をとおして指導していきたい。そして、今一度高千穂町の「メディア利用のルール」の家庭への啓発活動を行う必要がある。また、う歯の治療率が今年度は低かったので、あわせて保護者に啓発していきたい。	

【重点目標】○ 家庭や地域社会との連携強化

重点目標	重点目標	評価項目	具体的数値目標	方策・手立て	自己評定		考察及び改善策	学校運営協議会委員の意見
					指標	総合		
地域の中の学校づくり	人材活用	⑬ 学校は、地域人材や地域の素材等を授業に取り入れている。	○地域学習に関するアンケートの達成度が80%以上	・地域学校協働活動推進等の地域の人材について理解を深め、地域学習などの授業に積極的に活用する。	3.4	3.3	○評価は、平均「3.4」で達成率85%であった。本年度は、地域学校協働活動推進委員を通じて地域の人材を活用することができた。そのため、専門的知識や思いを児童が学ぶことができた。今後も地域の人材や素材を授業に取り入れ、ふるさとへの誇りや憧れを高めたい。	⑬ 地域の方々の協力により、地域の産業や文化などを取り入れた授業ができたと思う。 ⑭ 岩戸地区唯一の学校として、情報発信や地域の方々との交流は十分にできていると思う。 ⑮ 地域の側としても、学校からの発信で児童や学校と交流できる機会があることは嬉しく、地域の方々の生きがいとなりつつあると感じると同時に、関係性を大切に保てていると思う。 ⑯ 地域の行事(天岩戸夜市、岩戸投げ、桜まつり等)によく参加しており交流できている。 ⑰ 児童に減少により地域の行事への参加人が減っているように感じるが、全体からの割合で考えてみると増えている。
	情報発信	⑭ 学校は、学校参観や各種便り、HP等で家庭や地域へ積極的な情報の発信をしている。	○授業参観・懇談参加率が80%以上 ○各種便りの定期的な発行とホームページの定期的な更新	・日程や懇談の内容を工夫し、参観日に参加しやすい環境づくりに努める。 ・各種通信を定期的に発行したり、HPを定期的更新する。	3.1		○評価は、平均「3.1」で達成率78%であった。児童は保護者の評価は比較的高いが、職員の評価が低くなっている。ただ、先生方は週1回学級通信を発行したり、ほけんだよりやPTA新聞、学校ホームページの更新も定期的に行なうことができている。今後とも学級通信やほけんだより、PTA新聞等の定期的な発行や学校のホームページの定期的な更新をとおして情報発信に努め、信頼される学校づくりを目指す。	
	地域交流	⑮ 児童は、地域の各種行事等に積極的に参加し、地域と交流している。	○地域行事等への参加に関するアンケートの達成度が80%以上	・保育園や幼稚園との連携を密に行なう。 ・地域の各種行事等への積極的な参加を奨励する。 ・150周年式典を通して、児童の愛校心を育て、地域へ感謝する気持ちを育む。	3.3		○評価は、平均「3.3」で達成率83%であった。これは、地域学校協働活動推進員の協力を得ながら、どの学年においても校外活動や外部の講師招聘を積極的に行なった結果だと考える。また、創立150周年だったことを受けて様々な行事において、地域の方々とふれあう機会が多かったこともその要因と考える。来年度も、継続していきたい。	

【次年度の方向性についての校長所見】

「学校の教育目標を具現化するために、職員一人一人が当事者意識をもち、全職員が協働して教育にあたる。」「常に研鑽と修養に努め、互いに学び合う職場環境を醸成するとともに、家庭・地域と連携し、信頼される学校を目指す。」という経営ビジョンのもと、①子どもを伸ばす学校(継続、徹底、見届け、声かけ)、②教師の指導力を高め、磨き合う学校、③家庭・地域に信頼される学校を意識させ、実践してきた。

保護者や地域の方々のご理解・ご協力のもと、全ての項目について目標値を達成することができた。ただ、細かく見てみると、「知づくり」の家庭学習や図書館教育に関する項目、「地域の中の学校づくり」の情報発信の項目に関しては目標を達成することができなかつたので、職員の指導力向上や学校での取組を工夫することを目指し、具体策を講じる。

次年度も保護者や地域の方々の協力を得ながら、本校の教育目標「自ら考え、正しく判断し、豊かな人間性をもち、たくましく生きる児童の育成」の具現化を図るため、保護者や地域の信頼を得られるよう、全職員協働による教育活動に取り組み、健全な岩戸っ子を育む教育を推進する。